

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 橋本 和樹 (Hashimoto Kazuki)
所属 (School) 工学研究科 航空宇宙海洋系専攻
学年 (Grade) 修士 2 回 (Master 2nd)

留学先 (Name of overseas institution)
ハンブルク工科大学 (TUHH)
留学期間 (study abroad period)
2019/9/19~2019/9/30

記入日 (Date) 2019/10/7

留学レポート Study Abroad Report

●はじめに

私は 2019 年 9 月にドイツのハンブルク工科大学(TUHH)で開催された IWSH 2019 (11th International Workshop on Ship and Marine Hydrodynamics)に参加しました。さらに、学会中にハンブルク工科大学の流体力学を専門とする Moustafa Abdel-Malsoud 教授の研究室の学生と研究についてのディスカッションを行いました。本レポートでは、ドイツの国際学会や学生との交流、さらには現地で行った交流について報告しようと思います。

●国際学会への参加

私はドイツで開催された国際学会の IWSH 2019 に参加し、自身の研究について発表を行いました。この学会は主に船舶や海洋構造物に関する学会であり、100 名近くの研究者たちが集まりました。私はひとりでこの学会に参加していたこともあり、質疑応答などで困ったときに自分で何とかしなくてはいけないため、少し不安でした。しかし、当日の発表は事前に練習を行っていたこともあり、緊張せず上手く話すことができました。また、質疑応答についても私の拙い英語の回答を優しく聞いてくださる人ばかりで、何とか困ることなく終えることができました。自身の発表が終わった後も、積極的に学会に参加しましたが、なかなか他の人の発表を英語で理解することができず、自分の英語力の無さを実感することも多々ありました。それでも、夕食の席や BBQ で自分と同じような研究をしている他の研究者の方々とお互いの研究について話すことで人脈を広げることができました。また、学会のパーティーでこの学会の Best paper 賞を頂くことができました。まさか自分が賞をいただくことができるとは夢にも思っていなかったため、非常に嬉しかったです。

私から、今後国際学会に参加する人へアドバイスするとすれば、同じような研究をしている人と積極的に話をするということです。同じような研究をしている人とならば、多少英語ができなくても話合うことができます。共同研究や結果の共有など、今後の研究において良い関係に繋がる可能性もありますし、そのような交流こそが国際学会の醍醐味であると私は感じました。



Best paper 賞を受賞している様子

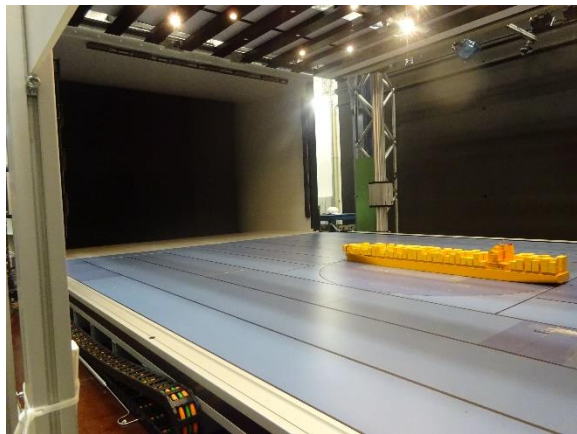


Newcastle 大学の中国人学生との交流の様子

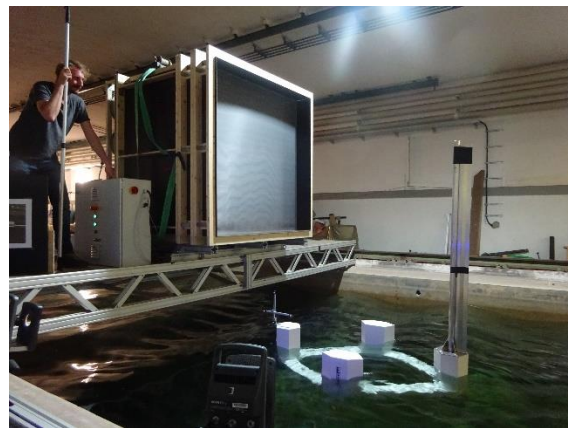
● TUHH の学生との交流

学会中に Moustafa Abdel-Malsoud 教授の研究室のドクターと彼のオフィスで自分たちの研究の進捗についてディスカッションを行いました。ディスカッションは 2 時間以上続き、非常に深くお互いの研究について理解を深めることができました。私は向こうの研究のレベルの高さに驚かされると共に新しい知識を多く学ぶことができました。また、向こうもこちらの研究結果に非常に興味を持ってくれ、たくさんの質問やアドバイスを頂きました。今後は、メールでお互いの研究を共有していくということも決まり、非常に有意義なディスカッションになりました。

後日、TUHH にある大型風洞の見学を行い、さらに G.m.b.H(ドイツの国立研究所)にて、彼らの浮体式風車の模型実験の様子を見学させて頂きました。大型風洞は約 3×3m と人が難なく入れるほどであり、その大きさに驚かされました。彼らはこの風洞を用いて風車にかかる力の計測などを行っているそうです。模型実験では実機の 1/50 の大型模型と性能の良い自作の風洞を使用していました。私の研究でも実験や風洞製作を行っているので今後の参考になると思います。



大型風洞の様子（今は船舶を設置している）



G.m.b.H での模型実験の様子

● 現地での交流

私は学部時代に大阪府立大学の柔道部に所属していました。そこで私はハンブルクの地元の柔道クラブの練習に参加し、一緒に練習をしました。彼らは柔道をしているということもあって日本に興味がある人ばかりだったので、すぐに仲良くなることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また、私は今回の学会中に民泊をしていたのですが、泊まっていた家の人達と一緒に夕食を食べることとなり、私は日本から持って来ていた日本酒とお好み焼きを振る舞いました。お好み焼きはドイツでは馴染みの無い料理ですが、彼らの口に合ったのか、とても喜んでもらえました。お好み焼きは粉とソースさえあれば現地で買える食材ばかりで、私のように料理の苦手な人でも簡単に作れるのでおすすめです！



現地の柔道クラブの様子



ホストとのディナーの様子

● さいごに

今回の学会では発表だけでなく他の研究者や現地の人達との交流を楽しみました。これらの交流を通して、海外での研究に対する姿勢や、物事の考え方など、日本にいてだけでは知り得ない視点を学ぶことができました。今回の国際学会への参加は、自身の視野を広げ、さらにグローバルな視点から改めて自分を考え直すよい機会だったと思います。皆さんも海外の人と交流するひとつのきっかけとして国際学会に参加してみたいかがでしょうか？ 大変な学会準備や発表練習以上の価値を見いだせると思います。